

今週の為替相場見通し(2025年4月28日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ	
		注	レンジ	終値		
米ドル	(円)		139.89 ~ 144.03	143.73	142.00 ~ 147.00	
ユーロ	(ドル)		1.1308 ~ 1.1575	1.1362	1.1000 ~ 1.1650	
(1ユーロ=)	(円)		161.00 ~ 163.71	163.29	160.50 ~ 166.00	
英ポンド	(ドル)		1.3234 ~ 1.3422	1.3311	1.2900 ~ 1.3600	
(1英ポンド=)	(円)	*	187.47 ~ 191.73	191.23	185.00 ~ 195.00	
豪ドル	(ドル)		0.6345 ~ 0.6439	0.6397	0.6300 ~ 0.6550	
(1豪ドル=)	(円)	*	89.64 ~ 92.22	91.90	90.00 ~ 94.00	

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替営業第二チーム 伊藤 基

(1)今週の予想レンジ: 142.00 ~ 147.00 円

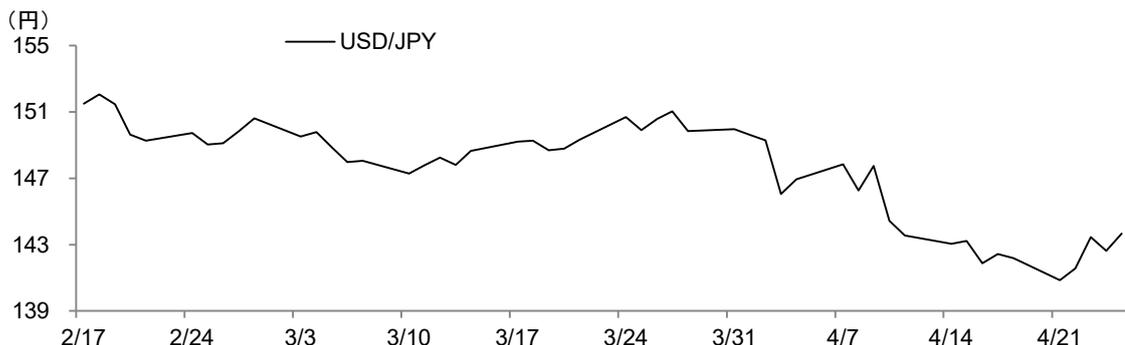
(2)ポイント【先週の回顧と今週・来週の見通し】

先週のドル/円相場は、7か月ぶりに139円台を付けた場面があったものの、値動きが激しいなか、週後半にかけては144円台まで円安ドル高が進行した。週前半は、前週末にトランプ米大統領がパウエルFRB議長の解任を検討しているとのヘッドラインを受けて幅広い通貨に対してドル売りの流れが強まり、22日には昨年9月以来、約7か月ぶりに139円台を付ける場面が見られた。しかし、その後週半ばにかけては、ベッセント米財務長官が対中国の関税交渉の行方について楽観的な見方を示したことや日米交渉において通貨目標を求めないなどと発言したことを受けて、ドル売りの流れが反転する中で、ドル/円は徐々に持ち直しの動きを強める流れとなった。週末には中国が米国からの一部輸入品目について報復関税の適用除外とのヘッドラインやトランプ米大統領が「習近平国家主席から電話があった」と情報発信したなかで、米4月ミンガン大学消費者信頼感指数の確報値が上方修正されると、一時144円台を付ける場面も見られた。

今週以降のドル/円相場は、本邦連休を挟む中、引き続き値動きの激しい展開が想定されるが、方向感としてはドル高円安での推移になると予想する。ここまでの相場はトランプ関税に関するヘッドラインが強く意識される展開となっているが、今週以降は市場の注目点が日米での金融政策決定会合に集まるとみている。4月30日(水)、5月1日(木)に開催される日銀金融政策決定会合では展望レポートが公表されるが、トランプ関税の影響から先行き経済の不確実性を強く意識した内容になる可能性が高いであろう。そうした中では、先行きの金融政策に対してタカ派的なコミュニケーションを行うのは難しく、トランプ関税がマクロ経済に与える影響について見極める必要があることを強調するような情報発信が行われる中、追加利上げ観測が一段と剥落する可能性を意識したい。一方で、翌週に行われるFOMCでは米景気減速リスクを意識しつつも早期の利下げには距離を置くスタンスが示されるとみている。トランプ関税の影響によって景気減速と物価上昇圧力の再燃リスクにFedは直面しているわけだが、Fedが恐れているのは景気の減速よりも、通貨価値の棄損を引き起こしかねない物価上昇圧力の再燃リスクである可能性が高く、早期の追加利下げには慎重にならざるを得ないであろう。更なる利上げが見通せない本邦に対して、追加利下げと距離を置く米国という構図が今週以降、両国会合を通して意識されるなかで、ドル/円には上昇圧力がかかりやすいとみている。

(3)先週末までの相場の推移

先週(4/21~4/25)の値動き: 安値 139.89 円 高値 144.03 円 終値 143.73 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上